

早稲田大学 商学部 数学 講評

出題形式	記述式
試験時間	90分
特徴・その他	

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
1	数列 図形と式 漸化式 微積	2回 \log をとればフィボナッチ数列が登場する。これは落とせない。 x と $-y$ を解にもつ2次方程式を考えればこれ以降は典型問題で簡単である。 数学Ⅲの極限、特性方程式とグラフの関連が分かっていると厳しい。 x 軸を θ 回転した直線を $y=mx$ と置きなおして、 m で考える。 $y=mx$ と3次関数の交点を $0, \alpha, \beta$ とおいて進めていこう。	標準 標準 やや難 やや難
2	ベクトル 場合の数	並べる順番がわかれば簡単である。辞書式の順列の問題であるので問題文の定義から正確にルールを把握すれば解けるだろう。	やや易
3	空間図形	(1)は得点したい。対称性を利用して計算量を減らしたい。(2)も(1)同様対称性に気が付きたい。4つの頂点の座標をなるべく少ない変数で設定したい。	やや難

〔総合コメント〕

大問1の小問集合は例年通りの難易度と計算量であった。2は近年取り組みやすい問題の出題が多い。3は例年同様難しい。特に(2)は難しい。1の(1)、(2)、2、3(1)まで取れば十分である。それ以外の問題で得点するのはかなり厳しいであろう。